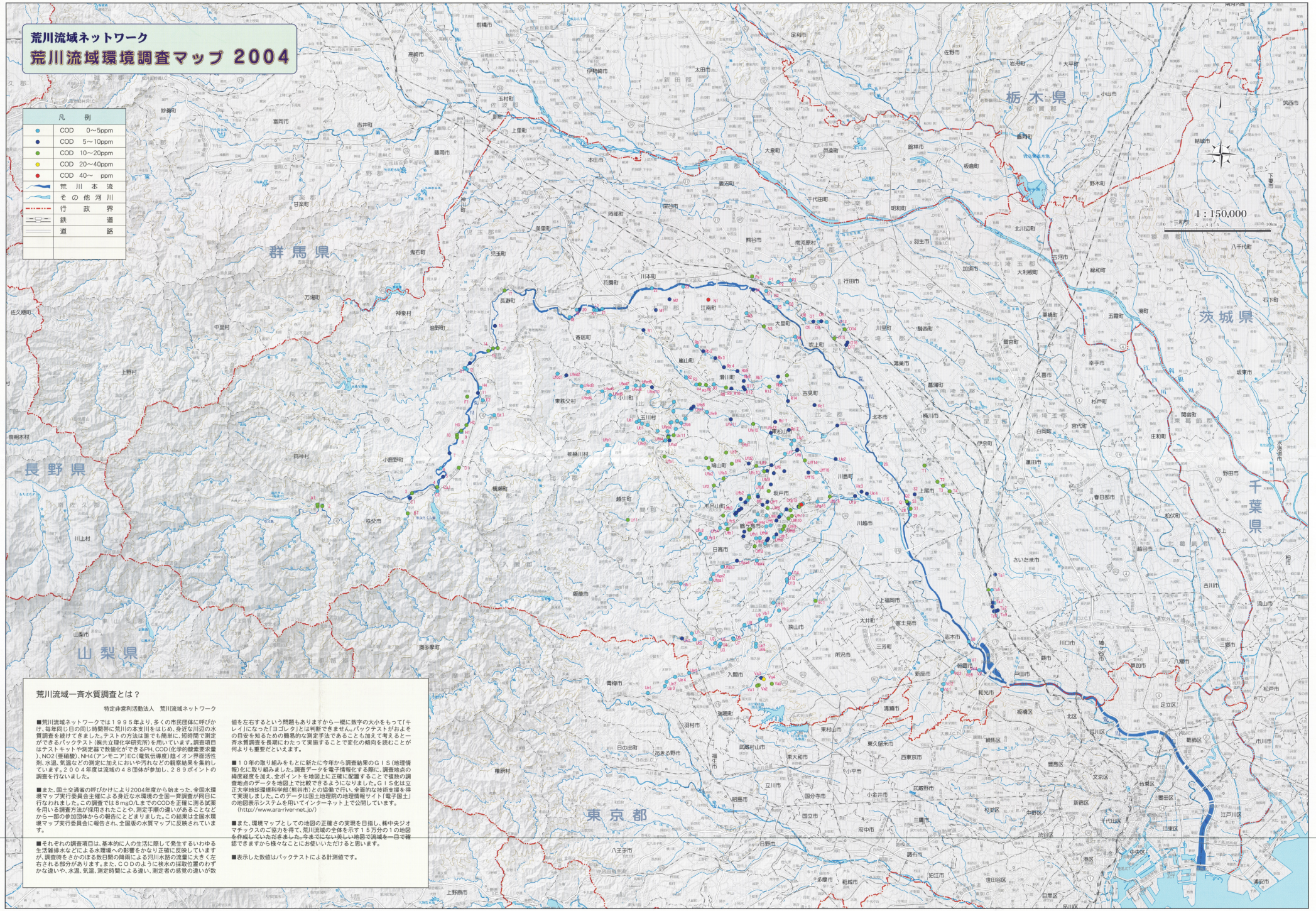
荒川流域ネットワーク
荒川流域環境調査マップ 2004



荒川流域一斉水質調査とは？

特定非営利活動法人　荒川流域ネットワーク

■荒川流域ネットワークでは１９９５年より、多くの市民団体に呼びかけ、毎年同じ日の同じ時間帯に荒川の本支川をはじめ、身近な川辺の水質調査を続けてきました。テストの方法は誰でも簡単に、短時間で測定ができるパックテスト（株式会社共立理化学研究所）を用いています。調査項目はテストキットや測定器で数値化ができるPH、COD（化学的酸素要求量）、NO2（亜硝酸）、NH4（アンモニア）EC（電気伝導度）陰イオン界面活性剤、水温、気温などの測定に加えにおいや汚れなどの観察結果を集約しています。２００４年度は流域の４８団体が参加し、２８９ポイントの調査を行ないました。

■また、国土交通省の呼びかけにより2004年度から始まった、全国水環境マップ実行委員会主催による身近な水環境の全国一斉調査が同日に行なわれました。この調査では８mg/LまでのCODを正確に測る試薬を用いる調査方法が採用されたことや、測定手順の違いがあることなどから一部の参加団体からの報告にとどまりました。この結果は全国水環境マップ実行委員会に報告され、全国版の水質マップに反映されています。

■それぞれの調査項目は、基本的に人の生活に際して発生するいわゆる生活雑排水などによる水環境への影響をかなり正確に反映していますが、調査時をさかのぼる数日間の降雨による河川水路の流量に大きく左右される部分があります。また、ＣＯＤのように検水の採取位置のわずかな違いや、水温、気温、測定時間による違い、測定者の感覚の違いが数値を左右するという問題もありますから一概に数字の大小をもって「キレイになった」「ヨゴレタ」とは判断できません。パックテストがおよその目安を知るための簡易的な測定手法であることと加えて考えると一斉水質調査を長期にわたって実施することで変化の傾向を読むことが何よりも重要だといえます。

■１０年の取り組みをもとに新たに今年から調査結果のＧＩＳ（地理情報）化に取り組みました。調査データを電子情報化する際に、調査地点の緯度経度を加え、全ポイントを地図上に正確に配置することで複数の調査地点のデータを地図上で比較できるようになりました。ＧＩＳ化は立正大学地球環境科学部（熊谷市）との協働で行い、全面的な技術支援を得て実現しました。このデータは国土地理院の地理情報サイト「電子国土」の地図表示システムを用いてインターネット上で公開しています。
（http://www.ara-river-net.jp/）

■また、環境マップとしての地図の正確さの実現を目指し、株中央ジオマチックスのご協力を得て、荒川流域の全体を示す１５万分の１の地図を作成していただきました。今までにない美しい地図で流域を一目で確認できますから様々なことにお使いいただけると思います。

■表示した数値はパックテストによる計測値です。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の２０万分の１地勢図及び数値地図５０mメッシュ（標高）を使用したものである。（承認番号　平１７総使、第１２号）

制　　作：特定非営利活動法人荒川流域ネットワーク／立正大学地球環境科学部
制作協力：国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所／株式会社中央ジオマチックス